



ハタハタ 日本海西部系群 令和5年度資源評価結果

生物学的特性

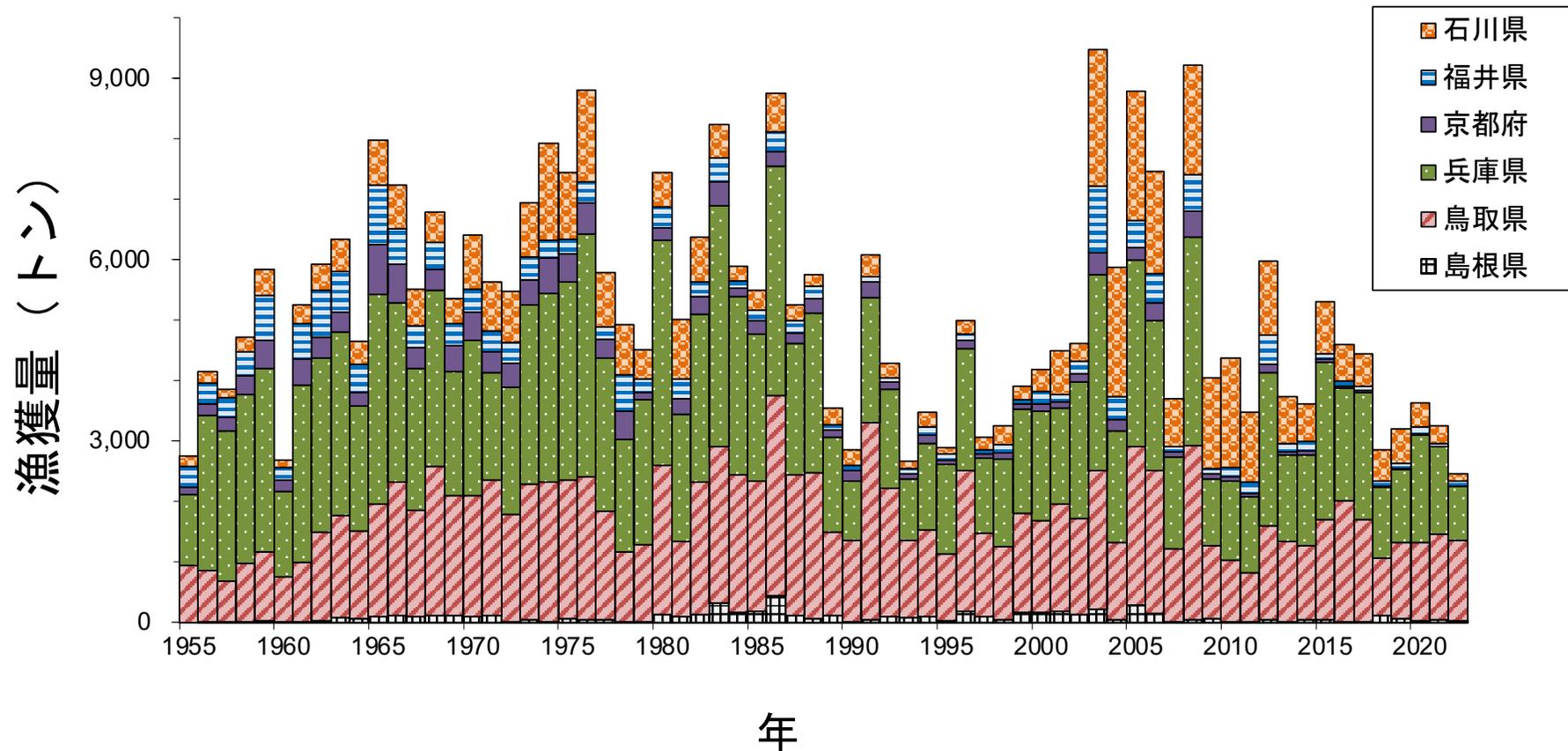


生物学的特性

- 寿命：5歳
- 成熟開始年齢：
雄1歳（50%）、2歳（100%）
雌2歳（100%）
- 産卵期・産卵場：
12月、秋田県および青森県沿岸、
朝鮮半島東岸
- 食性：
端脚類、橈脚類、オキアミ類、
イカ類、魚類
- 捕食者：
マダラ、アカガレイ

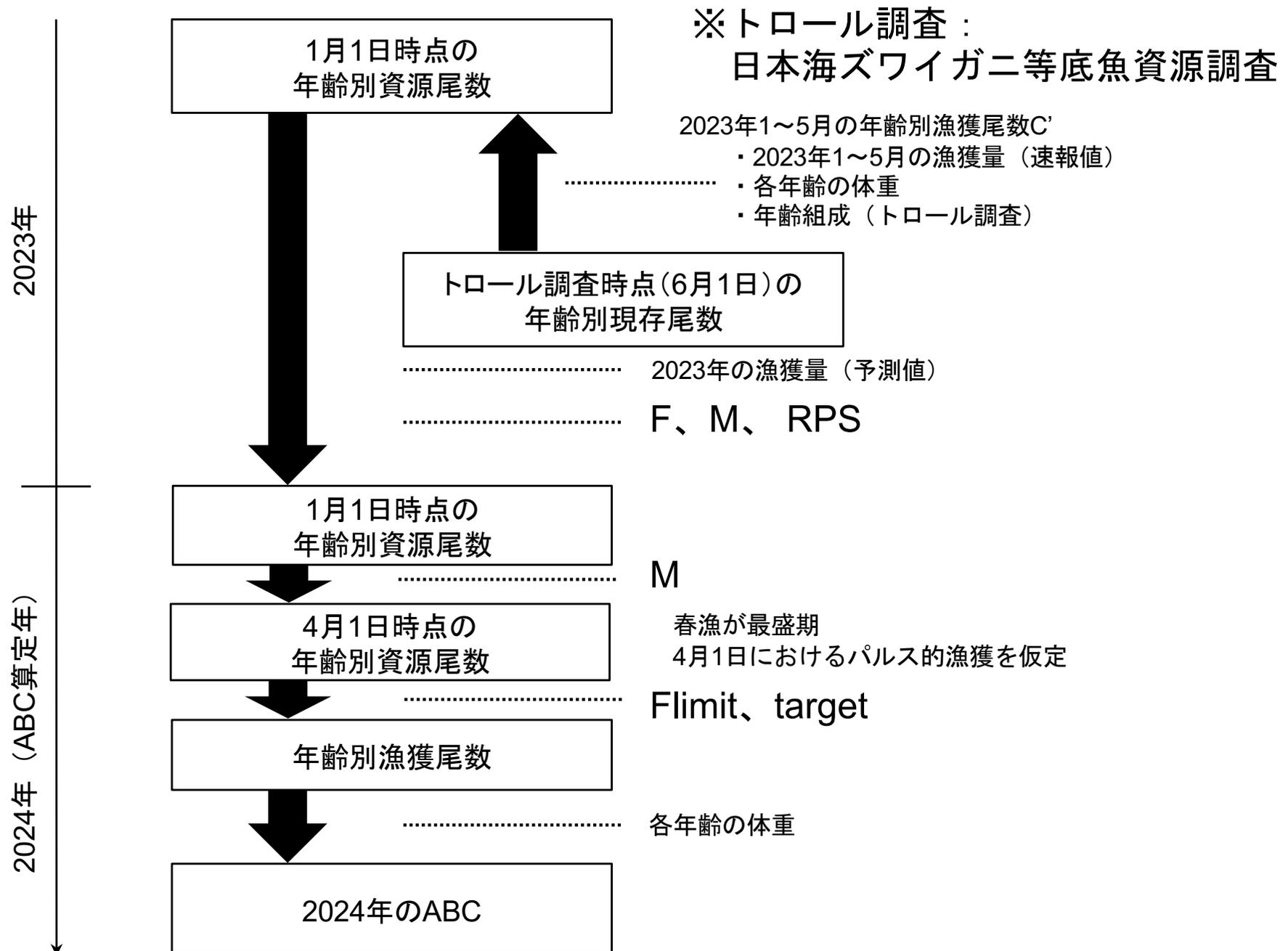
- 主漁期は3～5月で9～10月にも漁獲されるが春より少ない

漁獲の動向

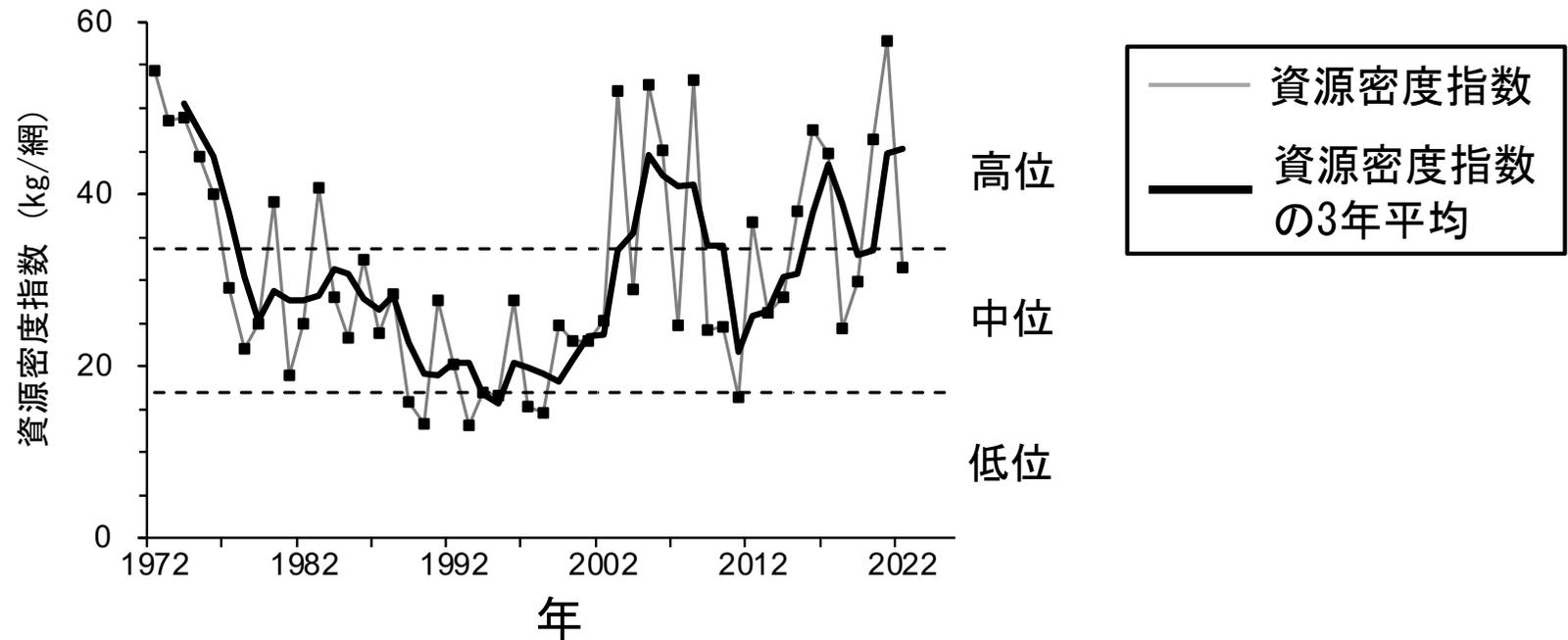


- 2022年の漁獲量：2,453トン（2021年：3,245トン）
- 主な漁獲：兵庫県、鳥取県、次いで石川県
- 兵庫県と鳥取県は全て沖合底びき網漁業（沖底）1そうびき、石川県、福井県、京都府、島根県は小型底びき網漁業が多い

資源評価の流れ



資源の動向①

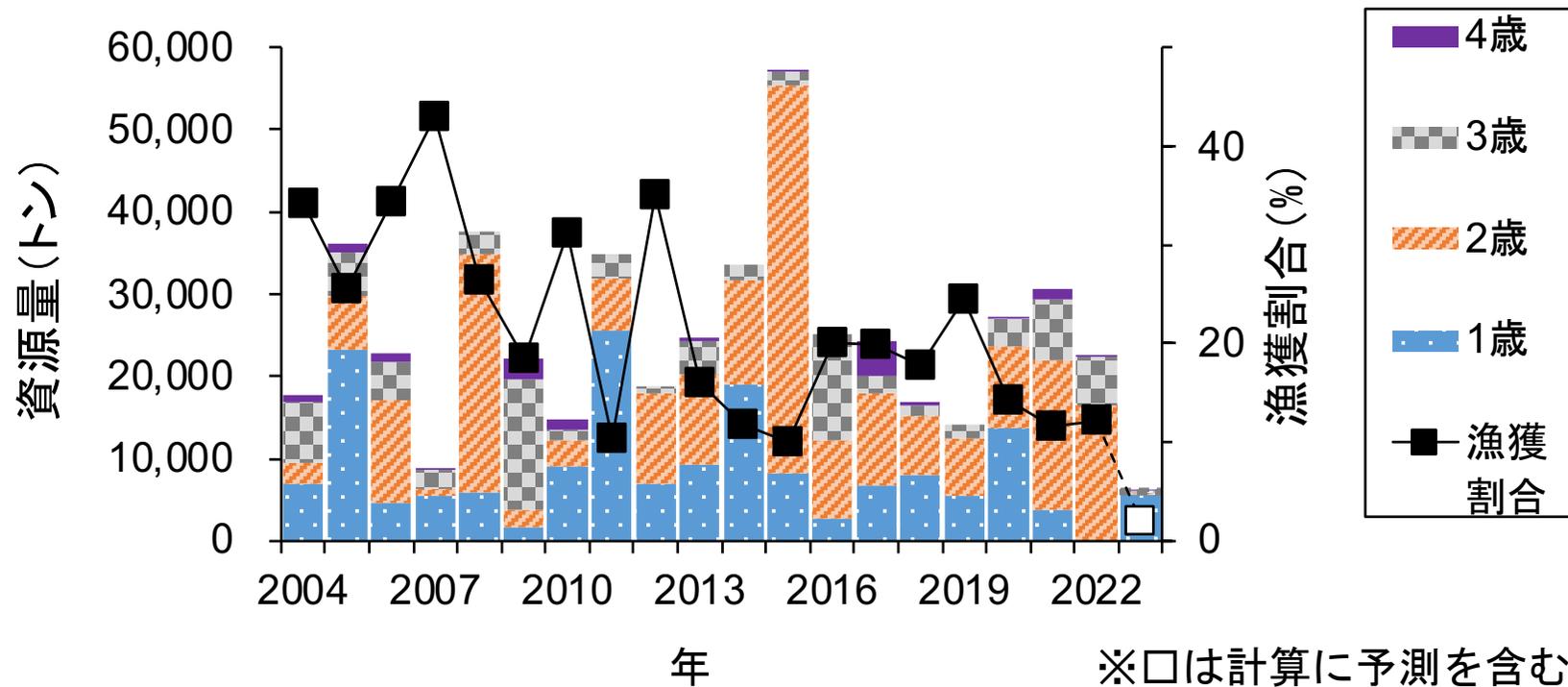


※水準区分 低位／中位：資源密度指数16.9、中位／高位：資源密度指数33.7
(資源密度指数の3年平均の最高値(50.6)を3等分して算出)

- 沖底の資源密度指数：
1970年代前半は50前後だったが、1993年に13.2となり
2003年以降は20～50前後で大きく増減、2022年は31.5
- 資源水準：直近3年間(2020～2022年)の資源密度指数の平均(45.2)から「高位」

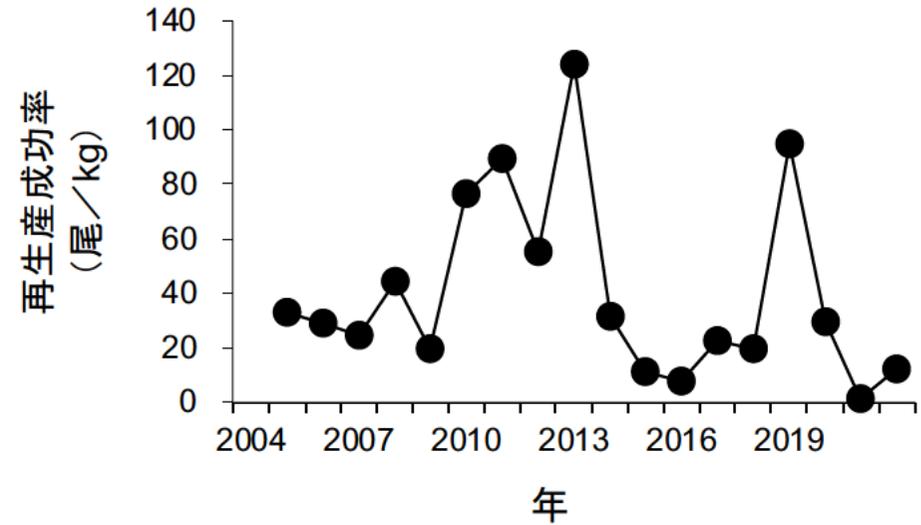
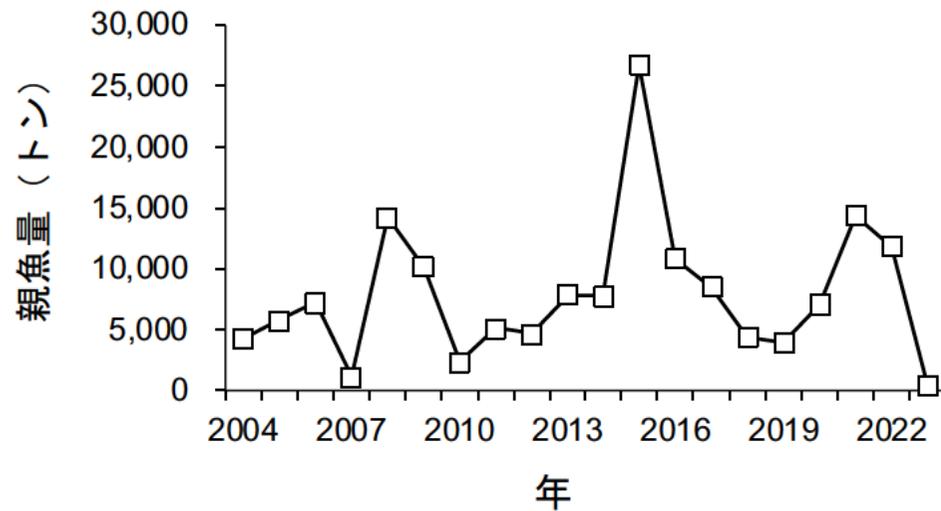
※資源密度指数：ハタハタが漁獲された月・漁区における1網当たり漁獲量の平均値 5

資源の動向②



- トロール調査に基づく資源量：2004年以降0.6万～5.7万トンの範囲で大きく変動
- 2023年資源量：0.6万トン
- 資源動向：直近5年間（2019～2023年）の資源量の推移から「減少」
- 漁獲割合：2015年まで大きな変動を伴いつつ低下
2016年（20%）上昇後、徐々に低下し、2023年は2%

資源の動向③



- トロール調査に基づく親魚量：
0.04万～2.7万トンの範囲で推移、2023年は0.04万トン
- 再生産成功率：
2010年以降高くなり、2013年に過去最高
2014～2018年は低く推移、2019年は上昇、2020年は低下
2022年は11.9 (尾/kg)

※再生産成功率：単位親魚量あたりの加入量 (尾/kg) であり、ハタハタ日本海西部系群では翌年加入量 (1歳魚) を前年親魚量で除した値で示している

資源評価のまとめ

- 沖底の資源密度指数（3年移動平均）より、資源水準は「高位」
- トロール調査により推定した資源量より、動向は「減少」

2024年ABC

管理基準	Target/ Limit	2024年ABC (百トン)	漁獲割合 (%)	F値（現状のF値からの増 減%）
1.0・Fcurrent	Target	11	7.0	0.07 (-20%)
	Limit	14	8.7	0.09 (±0%)

- ABC算定規則1-3)-(2)に基づき $F_{limit} = F_{current} \times \beta_1 (=1.0)$
- $F_{current}$: 直近3年間（2020～2022年）の漁獲圧（F値）の平均
- 現状の漁獲圧（ $F_{current}=0.09$ ）で資源量は維持される
- 2021年級群の豊度は1歳時点では過去最低
- 漁獲圧が現状より高まらないよう配慮し、資源量を維持すべき